

地域医療を守る長野県連絡会ニュース

地域医療と公立・公的病院を守る長野県連絡会 No. 4 2020年 3月 19日
TEL 026-223-1281 FAX 026-223-1291 E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

地域・患者とともに医療を

安曇野日赤病院長「率直なところ、当惑」

(中野武院長) 病院名公表は率直なところ当惑した。国は、発表はしたが進んでいないというのが現実ではないか。調整会議で「地域の医療について十分踏まえていないのではないか」という県のペーパーがあり少し安心した。安曇野赤十字の立ち位置は、松本医療圏だが、安曇野市を中心とした中核医療を担っている。松本医療圏は信大、相澤病院、こども病院など県全体の医療を担っている特殊性があり、それを勘案しないで分類された。松本平も高速道路をつかえば20分で行けるが、それを近接と言っているのか。北アルプス医療圏からも患者さんがくる。救急車搬入件数は年間2751件。まず病院に打診して公表するもの。ちょっと話が違ったという印象。



2/5 安曇野赤十字病院懇談

千曲病院「町議会でも『再編統合しないこと』の意見書決議」

(植竹智義院長) 千曲病院の病床稼働率は85%以上あり、冬場は100%になる。一か月間だけのデータで判断されても困るしデータの元がなっていない。この地域は、佐久広域の医療圏として官民関係なくみんなで一緒に医療を守ってきた地域。本来国が求めている医療ができている地域だ。それを一緒にたに切るといことはおかしい。ここは農業中心で、再編統合で病院をつぶすことは、第1次産業をつぶすことと同じ。病院の利用者の9割は地元の佐久穂町の人々。地域からは「千曲病院はどうなってしまうのか」といった不安の声があがった。19号台風の際に、病院は千曲川流域住民の避難所となった。災害でも病院が無くてはならない存在であることに胸を張ってやっている。

(事務長) 12月町議会では、国に「再編統合をしないこと」の意見書を上げた。町長も「危機感を持って受け止めている」とコメントしている。



2/28 千曲病院懇談

川西日赤「職員・住民、行政に支えられ」

(大和真史院長) 浅間総合病院が近接となるが、救急車で患者を搬送して帰ってくるのに2時間はかかる。実際の生活実感として近くはない。もし、この病院が救急を止めて全部を浅間病院に送るとなると、今の消防署の規模を倍以上にしないとできなくなる。職員にも不安があったが、説明会を行い、動揺はない。地域からはこの問題で動揺が出るかと心配していたが、むしろこのことで問題意識を共有できたと思っている。この地域の住民からは佐久市、東御、立科議会からも存続を求める陳情を上げていただいている。国は医師の「働き方改革」をすすめるが、これは医師の安定確保をより困難にするもので非常に心配をしている。

病院が地域に果たす役割は、

- ①災害などへの即応。
- ②病院として必要な患者はすべて受け入れ、病院間の連携で診ていくこと。
- ③在宅支援病院として介護とのネットワークの要になること。



3/17 川西赤十字病院 大和院長